

第2学年・学年だより

第 5 号

令和2年5月 1日(金)

調布市立第三中学校

第 2 学 年

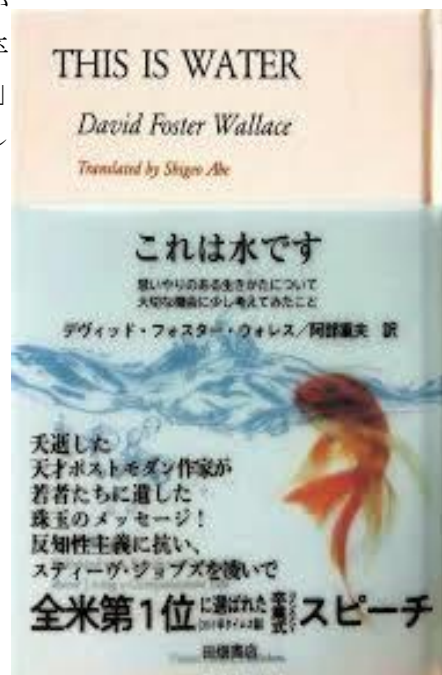
風のみち

「これは水です。」思いやりのある生き方について

ケニオン・カレッジの2005年度の卒業式に招かれた作家デヴィッド・フォスター・ウォレスが、卒業生に贈ったスピーチを収録。「考える方法を学ぶ」ことが人生にとってどれほど重要かを、平明かつしなやかな言葉で語る。【「TRC MARC」の商品解説】

ほんとうに大切な自由というものは
よく目を光らせ、しっかり自意識を保ち
規律をまもり、努力を怠らず
真に他人を思いやることができ
そのために一身を投げうち
飽かず積み重ね
無数のとるにたらない、ささやかな行いを
毎日続けることです。

「これは水です」より引用



考えるフレームが初期設定のままで、自分さえよければいいとか、他人の事情なんて想像もしなかったりして、あくせく働いては疲労とぼつねんとした怒りがやるせないそんな毎日から抜け出すには。 自分中心の世界観から脱出して、何を考えたいか、どうありたいかを問うこと。 本当の自由は、好き放題やることでは決してなく、 主軸を持って、正しく生き、人のために尽くし、努力を積み重ねる毎日を過ごすこと。 何度も声に出して読んで、本が言わんとすることを、自分の生き方に落とし込みたい

読書メーカー

夭折した作家による大学卒業式のスピーチ。副題はSome Thoughts, Delivered on a Significant Occasion, about Living a Compassionate Life。Compassionateは辞書には、憐れみ深い、情け深い、同情的な、とあるが、求められているのは他者を想う想像力であろう。自分中心の視点でなく、自分と同じ、感情、欲望、不安、期待、快、不快…その他諸々が他者の中にも存在するという「当たり前のこと」に気づくことが、この後の人生を変えるのだと。 読書メーター

本書を読んで感じたことは、想像力の大切さである。抽象的な言い方にはなるが、例えばある物事を体験したとして、それを額縁通り受け取るのか、はたまたその背後に潜む何かを自分が汲み取れるのか、そこに人間としての差が出るのではなからうか？その想像力を養うために必要なのが教養だと思う。決して知識の詰め込みを指すものではない。判断材料を養うために教養はある。 読書メーター

自分中心で物事を考えて行動する人をよく「自由だ」などと評する事があるけど、実はそれは自由でも何でもなく、他人の様々な視点を想像・理解し、その都度自分の考え方（崇拝）を変え、その場に適応していける事こそが、本当の自由なのだという話。自分の目線でしか語れない人はここでは「初期設定のまま」と表現されている。この初期設定を外すために、学ぶ。今でこそ凄くよく分かる話だけど、20代の頃なんかは自分こそが正しいと思い込んでたな。思えばこういう事を教えてくれる人を探すために、自分は本を読んでいるのかも知れない。 読書メーター

中学生には少し難しい内容です。卒業式のスピーチがそのまま詩になって日本で出版され有名になったものです。内容は上記の読書メーターの通りですが、自分中心のものの考え方（作者の言葉を借りると「この僕が宇宙のど真ん中にいて実存するなかで、もっともリアルで生き生きして誰よりも重要な人物であるという確信」）というものは「初期設定」でありそれがアップデートしない限り僕たちは不自由なままだ。という考えです。

人生の中で何を選び取るかを考え続けること、他人の痛みを想像し続けること。当たり前のことだが、死ぬほど難しい。それでも、そういうふう生きるのはきっと正しい。そうやって生き続けなければならない。自分がいったいどこで何をしているのかわからなくなってしまうように。今まさに私たちが置かれている状況は「自分が苦しい。」しかしそこから一歩踏み出すためには他人を取り入れることだ。とウォレスさんは訴えたかったのではないかと思います。

「これは水」です。の意味。それは「魚の目に水見えず、人の目に空見えず。」という意味です。魚は自分の周囲にある水という存在に気づかないという意味です。あたりまえに私たちの周りにあることに気づかなければ人は生まれたままの「初期設定」のままです。それは将来的に不自由な目に遭うことを意味します。この本の中間部ではカートを押し、スーパーのレジにイライラしながら長蛇の列にいる夕暮れ時の仕事帰りの人たちも登場します。長蛇の列にイライラする人はレジを打つ店員さんの気持ちを少しでも理解すればその人は立派にアップデートされるのですが、、、 周囲を見ましよう。自分の立場だけ自分の感情だけ、プライドだけ、そんなことを言っている場合ではないはずです。